

河舟にのりて心の行ときは玄づめる身ともおもほえぬかな

〔弘長百首雜河〕

實空

行とまるいづくをさしてかよふらん下ればのばる淀の川船

〔類聚名義抄舟〕三 舶 フタシフ子 同水漢又作艤、フタシフ子

〔令義解雜凡要路津濟○註不堪涉渡之處皆置船運渡○下略〕

○按ズルニ渡船ノ事ハ地部渡篇ニ具ス。

〔倭名類聚抄船十一〕舸 四聲字苑云舸中略漢語抄高尾舟一云戰士可乘之輕舟也

云波夜布禍

〔類聚名義抄舟〕舸 ハヤフ子

〔易林本節用集器財〕早舟 ハヤフ子

〔倭訓采前編二十四〕はやふね 和名抄に舸をよめり古ヘ鳥船鴿船あり今いふ關船也。

〔和漢船用集舟名數海船〕舸 ハヤフ子 楊子方言南楚江湖凡船大者謂之舸本邦今呼で關船と云貳挺立より八拾挺立以上に至て皆早舟也。

〔日本書紀欽明十九〕十四年八月丁酉百濟遣上部奈率科野新羅下部固德汝休帶山等上表云○中今年忽聞新羅與泊國通謀曰百濟與任那頻詣日本意謂是乞軍兵伐我國歟○中臣等聞茲深懷危懼卽遣疾使輕舟馳表以聞○下略

〔保元物語三〕爲朝鬼島渡事并最後事

去程ニ永萬元年三月ニ磯ニ出テ遊ケルニ白鷺青鷺二連テ沖方へ飛行ヲ見テ鷺ダニ一羽ニ千里ヲ飛ト云ニ況鷺ハ一二里ニハヨモ過ジ此鳥ノ飛様ハ定テ島ゾ有ラン追テ見ント云儘ニ早舟ニ乗テハセテ行ニ日暮夜ニモ成ケレバ月ヲカヽリニコギ行バ明ボノニ既ニ島影見ヘケレバコギ寄タレ共荒磯ニテ波高ク岩岨クテ舟ヲ可寄様モナシ